

<PubMed>

Q1. PubMed の演習の詳しい解答例の資料があればほしいです。メモしたのですが、理解しきれない部分があったので。

Q2. PubMed 実習 5 の検索式を教えてください。

A. 当日プレゼンテーション資料の PDF 版を掲載しました。ご覧ください。

Q3. MeSH がついていない文献をもれなく検索する方法は？

A. 検索をする主題に関して、表現されている言葉をできる限り、列挙し、それらが、タイトル中または、アブストラクト中に出現する文献を検索します。

具体的には、①タイトル、アブストラクト中に出現する言葉を想像し列挙してみます。②言葉の語尾変化について想像して列挙します。③複数単語の組み合わせの場合、そのパターンを考えてみます。④検索する言葉（フリーターム）がきまったら、検索対象範囲をタイトルとアブストラクトに限定（キーワード[tiab]）して検索をします。

※検索対象範囲をタイトルと抄録に限定するのは、そのフリータームが著者名、雑誌名、所属機関名のなかにあって、ヒットしてしまうというノイズを減らすためです。

①の想像が難しい時は、該当する MeSH の Entry Term を参考にしたり、アルクの英辞郎 On the Web や、Online LSD で調べたり、医学英語辞典で調べるなど工夫をしてみましよう。

Q4. Mapping する検索語は MeSH で検索する必要がありますか？

A. Mapping する検索語について MeSH で検索をする必要があるのかどうかというのは、むしろ、どういう検索を求められているのか？という「検索行為の大元」に依存します。

Mapping というのは基本的には、入力されている文字によって、機械的に、検知され、選択されています。このため、時として、希望しないほど大きな検索になり、違う方向の検索語を指定することもあります。一方 MeSH の見た目は文字ですが、その奥には「概念」というものをもっています。

このため、いろんな表現があるけれども、概念に合致したものを希望する場合は、MeSH で検索したほうが、ぴったりあう文献の多い集合をつくることができるわけです。講義でもお話ししましたとおり、希望しない下位概念の検索語を外すこともまた、MeSH ならば可能です。そのようなわけで、Mapping したあと、またわざわざ MeSH で絞り込むということもあるのです。

Q5. MeSH Browser の中で Previous Indexing についてです。

例えば "Influenza A Virus,H1N1 Subtype" のデータには Previous Indexing の所に "Influenza A Virus" と入っていますが、これは過去の "Influenza A Virus" がというシソーラスが付けられていた論文データに対しても、遡って、新しい方の "Influenza A Virus,H1N1 Subtype" が付与されている、という事だったのでしょうか。それとも過去のデータは、Previous Indexing の語で検索する必要がある、ということだったのでしょうか。Previous Indexing が付いていないものには注意！という事だけは記憶しているのですが、詳しい部分を理解しきっておりませんでした。ご教示いただければ幸いです。

- A. **Previous Indexing** は、新設の **MeSH** タームについて、以前使われていた **MeSH** タームを表示しているものです。通常はタームが新設された年から遡ってデータが修正されることは少ないと考えたほうがよいと思います。その中で、**MeSH Browser** の「**Online Note**」により記載がある場合、遡って修正されていることがあります。

慎重な検索をするときは、ターム新設年より以前の部分については、①「**Online Note**」に指示があればそれに従う。②**Online Note** がなくて、**Previous Indexing** で示されているタームがある場合は、その年代は示されたタームで検索をしたほうがよいと思われます。ただし、たいていの場合の **Previous Indexing** は、新設タームの上位語ですから、検索結果にノイズが含まれることは覚悟をしてノイズを除去する対応をする必要があります。なるべくそのものを示すことになる特異的なフリーターム（今回の例ですと、**H1N1 Virus**、**Swine-Origin**、**H1N1 Subtype** など）を掛け合わせることも重要です。

Q6. Substance name はどういうときどのように使うのでしょうか？

- A. **Substance name (Supplementary Concept Record)** は化学物質や薬剤が関係する文献を探す時に重要になります。化学物質や薬剤の多くは **MeSH** にはなっていません。（**MeSH** タームにアップグレードするには様々な評価基準に基づかれるそうです。）しかしながら、**Substance name** ならば、準 **MeSH** 用語としてその化学物質、薬剤を特定して検索ができます。開発番号（開発名）、一般名、商品名、など **MeSH** タームのように **Entry Term** として包括している場合もありますので、化学物質検索の悩みであるいろいろな表現への対応も楽になります。加えて、必ず上位の **MeSH** タームが付与されていますので、その点からも化学物質に弱い検索者には参考となる「ヒント」もついているといえます。毎週アップデートされていることも、より最新の情報で検索ができるポイントといえます。

索引時には、必ず、**Pharmacological Action** と併用することになっていますので、検索する時は、その薬剤・化学物質におけるにおける薬効（薬理作用）も特定することができます。

Q7. 講義の最後の方の NOT で検証した部分がよくわかりませんでした

- A. 検索結果の検証に **NOT** を使うのは、文献集合同士の関係、および、検索漏れを確認するためです。A と B の文献集合の場合、A **NOT** B により得られる文献とは、つまり、A の検索式では引っかかったけれど、B の検索式では落ちたものがみつかります。どういう文献が落ちたのか、それには、どのような **MeSH** がついていたのかを確認することで、B の検索式を組み立て直したりするのです。

Q8. 演習解説の最後にヤコブ病と認知症の例がありました。Indexing Rule では下位語で索引されることになっていますが、下位語を 4 語 (だっと思いたすが) 以上索引語とする場合は、上位語を索引語とするよう決められています。従って、この場合、Dementia を MeSH に限定するのではなく、フリータームとし、ヤコブ病とかけあわせると、もう少し該当文献がヒットするかもしれません。

- A. 上級編の講義内容に含めていただきます。

Q9. 原著論文に絞り込みたい場合は Type of Article 「Journal Article」で絞るしかないでし

ようか

- A. PubMed に収載されている約 1950 万件のうち Journal Article は 1830 万件を占めるそうです。PubMed では Comment、Letter、Editorial、News、Interview、Congress、Bibliography など以外は Journal Article になるようです。このように、通常私たちが考えている原著論文（会議録や症例報告やレビューではない論文記事）を絞り込むのに Journal Article を使うのは無理があると言えます。Type of Article は MeSH でもありますので、Journal Article を MeSH DB や MeSH Browser で調べて見ましょう。並列タームや下位語はいかがでしょうか。絞り込みたい「原著論文」という言葉そのものについて、どのようなものか具体的に確認をしておかないと、単なる文字列の Journal Article、普段自分たちが「暗黙の内に定義して使っているコトバ」との「概念の含みの違い」がありますので、注意しましょう。さがしている論文記事種類にぴったりの Publication Type のタームが他にあるかもしれません。その場合は、そのタームで絞り込むことも一つの方法です。場合によっては、報告書を含まない、review を含まない、メタアナリシスを含まない、という消去法も考えられます。そのようなわけで、今回は、「場合によります。」と答えさせていただきます。

Q10. 利用者が「PubMed で自分が Top Author でないもので会議録を探したい（業績収集目的で）」とのことでした。Single Citation Matcher で Author を検索し、利用者の専門で絞ってみましたが、そこまででかなり少なくなってしまう、利用者に目で確認してもらったところ、おもうような結果ではないようでした。この場合どのような手順・方法で検索、対応すればよかったのでしょうか。

- A. 残念ながら、PubMed では、学会大会の発表抄録はメインの収録対象ではありません。ですから、全くないとはいえませんが、PubMed は学会発表抄録を探すにはふさわしいとはいええない DB です。国内発表でしたら、JDream の国内医学文献ファイルや、医中誌 Web の検索をおすすめします。また、BIOSIS が使える環境でしたら、そちらでの検索を優先しましょう。海外系で困ったときは、やはり、Google 検索でしょうか。

<医中誌 Web / PubMed>

Q1. 医中誌 Web では、副標目を使うことはオススメではないということでしたが、こういったものが漏れるのでしょうか？

また、PubMed のサブヘディングはどうなのでしょう？

- A. 医学中央雑誌刊行会に問い合わせたところ、下記のようにご回答頂きました。

副標目による絞り込み検索は、効率よくテーマを絞り込むには有効ですが、絞り込み過ぎてしまうあまり、漏れの少ない検索には向かないことがあります。

また、医中誌では MeSH 準拠の「医学用語シソーラス」を用いて索引していますが、副標目 (Subheadings) については MeSH とはかなり異なります。MeSH の副標目数は 80 数個、医中誌では 35 個ですので、この差が付与数にも反映し、PubMed と比べた時に医中誌 Web では、副標目の付与に漏れがあるとの印象を持たれるかもしれません。

副標目の登録数や付与ルールについては年代により変遷があります。また索引の深さにも年代により差があります。以下、医中誌 Web で副標目検索を行う際の主な注意点を記します

ので、参考にしていいただければ幸いです。

・ 副標目の付与ルール

副標目は、一つのキーワードに対して最大 3 個までの付与としています。また、付与可能なカテゴリーを限定しています。付与が必要かどうかは、索引ルールに則ってインデクサーが判断します。例えば、薬物名を索引した時には、その薬物がどのような目的で扱われているかを読み取り、副標目の「治療的利用」「診断的利用」「毒性・副作用」「薬理学」などのうち、適切なものを付与します。これらのうち、どれにも当てはまらない場合は、副標目は付与されません。このように、4 個以上の副標目は付与されません。また、索引されたキーワードすべてに副標目が付与されるわけではありません。

・ 副標目数について

2000 年以前は、約 100 個の副標目を使用していました。2001 年に副標目の大幅な見直しを行い、その年以降、35 個の副標目が使用されています。以前と比べると、疾患に重きを置いた副標目の付与としました。そのため、2001 年以降のデータでは特に基礎分野に関しては、副標目が付与されなくなっています。

・ 索引内容の変遷

10 年程前から索引内容の充実を図り、副標目についても必要なキーワードに漏れなく付与するようにしてきています。それ以前は論文タイトルを中心とした比較的浅い索引だったため、副標目も、現在ほど多くは付与されませんでした。

なお、現在は論文種類によって索引の深さを変えており、原著論文に比べて会議録文献はポイントを絞った索引を行っているため、付与されるキーワード数は少なくなっています。

PubMed のサブヘディングでは、索引者の主題認識と検索者の主題認識および、それによる索引付けが異なる部分あれば、そこが、「漏れ」となります。

それは、サブヘディングをつける時も、MeSH をつけるときも同じです。ただ、英語の場合は、表音文字なので、機械的にも索引を行うことがかなり可能であり、その精度も日本語のような表意文字とは違います。

また、MeSHBrowser での索引指示や、索引マニュアルの公開なども、充実しています。なので、お勧めできないとはもうしません。しかし、所詮、索引者と検索者は別なので、主題の捉え方の相違は発生します。

そんなわけで、MeSH やサブヘディングで検索すれば、正解、絶対に正しい、完璧という検索になるとは限りません。ただ、膨大な数になってしまった文献集合の場合は、漏れがあるのは承知でも、まずは、MeSH やサブヘディングをつかって、篩にかけると、それなりに主題に即した文献集合をつくることができます。繰り返すようですが、検証検索をして、漏れを確認し、補完検索を追加していくことも場合によっては、必要になります。

- Q2. 雑誌で、原著論文と書いてあるのに（又は見が目が原著なのに）、医中誌 Web や PubMed で総説・解説、Review と索引されていることがあります。例えば、Medline 等で検索された文献の内容をさらに分析したようなもので、見目は原著のように対象、方法、結果などになっています。）このタイプの文献の種別がどう索引されているのか教えてください。また、メタアナリシスと分類されているものと、どう違うのでしょうか。

A. 一見、シソーラスとは関係のないご質問のように見えますが、実は、シソーラスがなんであるかを知るためにはとても重要なことが含まれていると思います。

どのようなものをどのように索引するかはそれぞれの DB によって定められています。通常、検索用の DB であるならば、その索引方法や種類の定義などは、利用者つまり、検索者に公開されています。

今回おたずねの内容ですが、医中誌 Web でしたら、論文種類の定義については医学中央雑誌刊行会 HP のトップページにある、ユーザー向け情報のなかの「編集方針に関するお知らせ」→「論文種類の定義」に、メタアナリシス等研究デザインの定義は医中誌 Web の検索画面にある HELP（またはログイン画面の Ver.4 検索ガイド）に記載されています。

「論文種類の定義」によりますと、原著論文・総説の定義は雑誌に「原著論文」等の記載があればそれを参考に判断し、特に原著論文の場合は雑誌に「原著論文」等記載があれば、ほとんどの場合原著論文と指定されると書かれています。医学中央雑誌刊行会に確認したところ、論文種類では原著論文を広めに付与するため、質問のパターンと逆になりますが雑誌に「総説」と記載があっても、原著論文の形式をとっていれば「原著論文」と索引されることはあるそうです。また、メタアナリシス等の研究デザインは原著論文に付与されます。

PubMed の場合は、文献記事種類 (Publication Type) が MeSH になっていますので、MeSH Browser で調べてみましょう。講義でもお話したとおり、MeSH Browser は索引者向け情報です。今回、特に注目するところは、Scope Note と Annotation です。ここをよく読むと、Journal Article という言葉を Publication Type として使う場合には、どのようなものが含まれるかが書かれています。

<PubMed>Q9 と関連しますが、まずは、「原著論文」という言葉の定義がポイントになります。「雑誌で原著論文と書いてある」のは、その雑誌の編集方針、投稿規定で、どういふものを「原著論文」とするかが定義されています。「原著論文」というくくりのなかでも、雑誌編集側の定義と、DB への収録時（索引時）における定義と一致していないので、「見た目は原著なのに・・・」ということになります。ご質問のメタアナリシスもメタ解析という研究ですので、対象、方法、結果をキチンと記載しているものを原著論文とするならば、原著論文ですし、他の文献を集めてレビューしているものをレビューというならば、レビューともいえるのです。それは、それぞれの「定義」によるのです。

例えば医学中央雑誌刊行会より頂いた例ですが、PubMed にも収載されている論文で、医中誌 Web で論文種類＝原著論文、研究デザイン＝メタアナリシス、シソーラスに「メタアナリシス」「システムティックレビュー」が付与された論文が、PubMed の Publication Type が一方は「Comparative Study, Meta Analysis, Review」となっているのに対し、もう一方は「Meta Analysis」のみとなっていました(医中誌 Web: 2009275480・PubMed: 19303745、医中誌 Web: 2009275480・PubMed: 19420895)。これは DB の定義の違いによります。

「原著論文」をきっかけにシソーラスとは何であるか、なぜ必要なのかということについて、身近なこととしてもっとわかりやすくなると思います。

多くの人の手によって、索引され使われていくためには、暗黙の合意は通じません。シソーラスは見た目の言葉だけでなく、含む概念や、範囲を定義している（統制している）ことにより、「暗黙の合意」を「明確な公開」にしているのです。ただ、自分の希望する主題に

即した検索をするための言葉（検索語）としてだけ捉えていると、自然語に比べて、硬直化した言葉で使いにくいように思えますが、言葉の定義、概念の定義を明確に、その関係を階層化して明示し公開していることは、不特定多数の方と情報を共有するためには、必要で重要な「共通要素」であるといえるのではないのでしょうか。

<医中誌 Web>

Q. 医中誌の副標目は臨機応変に使用すると考えてよいのでしょうか？

絞り込み検索だと漏れも多くなるということですが、副標目を使う利点は何でしょうか？

A. 大まかで良いので効率よく検索結果を得たい場合や、検索結果数が非常に多く出てしまい、シソーラスによる検索やキーワードの追加では絞り込めない場合などに使用するなど、検索結果を見ながら状況によって使い分けるということで、ご質問のとおり臨機応変に使用すると考えてください。

副標目を使わず検索して、目でみて判断できる程度の検索結果数になるようであれば、副標目で絞り込まない方が漏れる心配がありません。

<その他>

Q1. 利用者にガイダンスするとき、MeSH を説明するにあたって、知っておくどのような時に便利か、どのように使えるかを簡潔に説明するにはどうやって述べたらよいのでしょうか？教えていただけると幸いです。

MeSH とは何かを説明するのに精一杯で利用者は難しいという印象しかないようです。

A. まずは、自分自身でどのようなときに便利でどのように使えるかを確認しましょう。次に、説明する相手の興味を引く分野やキーワードでの実際を示すと、ご理解いただきやすいと思います。

MeSH に限らず、シソーラス検索の利点として適合率が高く、ノイズが少ない検索をすることができると言えます。最新のデータについては漏れが生じる場合もあることを踏まえたうえで、MeSH を使うと自然語で検索した場合に比べ、特に自分が検索したいキーワードが主題となっている論文を検索することができると説明してはいかがでしょうか。検索だけで見れば「面倒くさい」「難しい」というのは誤りではありません。ただ、検索結果からの目的の文献の選択までを含めて考えると、「効率的」という場合が多くなるかと思います。検索に時間をかけるか選択に時間をかけるかの違いとも言えます。

やはり利用者は「MeSH とは何か」という時点で難しく感じていますので、検索方法も説明しながらの講習では中々深く理解してもらうのは難しいですね。図書館員に相談しやすい環境にあるなら、網羅的に検索したいときなどは相談してもらえばいいので、短い時間に無理に教えなくてもいいかもしれません。Q. 2 にシソーラス検索の講習例をご紹介しますので、そちらもご参照下さい。

Q2. 利用者にはシソーラスをどのくらい説明していますか？本学では学生へのガイダンスでも軽く説明しているのですが、かえって学生の検索への壁を高くしているようで迷っています。

A. ご参考までに、実行委員の所属における例をご紹介します。

<愛知学院大学>

***歯学部生 5 年生**

PBL 学習が行われるので、役に立てばということから医中誌 Web の簡単な検索方法をガイダンス形式で行っています。

きちんと聞いている人、知っているからと聞き流す人と半々くらいの印象です。歯学部生のため、直接医中誌 Web を使うことが無いことも影響しているかもしれません。

***大学院生 1 年+希望受講者**

今年度特別講義の時間を頂き、そのうちの 2 コマ医中誌 Web・PubMed の具体的な実習形式で利用方法、検索方法を行いました。初めての具体的な説明になるため、シソーラスの説明は行っていません。

自分で検索、利用方法を探して行っている姿が見受けられました。大学院生の論文作成に必要ということで学ぼうとしている方が多く見受けられました。

<愛知医科大学>

***医学部 1 年**

医学部は授業の中で 1 年生のみ図書館担当分として 4～5 コマいただいています。学部生で系統的に指導できるのは 1 年生のこの時間のみです。

医中誌 Web においては、3 コマ目あたりでお役立ち機能の 1 つとして教えています。

(シソーラスを使う理由、利点など)

あまり混乱もなく受け入れているようですが、本当に理解できているかどうかは不明です。PubMed は、混乱が予想されますので MeSH は教えていません。たぶん次に使うときは、数年後だろうと思われるからです。

***大学院生(医学研究科)**

図書館ガイダンスとして 7 月初旬に 1 時間半のみ。1 時間半で医中誌 Web, PubMed, Refworks など一通り教えるので広く浅くしか触れられません。

また、受講生も 100 人程度と多く、理解できているかどうかは不明ですが、院生のレベルとして知っておくべきことと考え、医中誌 Web, PubMed とともにシソーラスまで教えています。(シソーラスを使う理由、利点など)

<朝日大学>

***大学院 1 年**

1/2 コマで PubMed と医中誌 Web の講習会を図書館で行っています。

ここでは、基本操作等を中心に行っていますので、どちらのデータベースも、シソーラスについての説明は行っておりません。

***希望者 (研究者)**

PubMed 編 と 医中誌 Web 編の別々に講習会を行っています。

ここでは、基本操作の他、シソーラスについても説明を行っておりますが、受講者の反応は鈍く、実際の検索で使っているか疑問です。

<名古屋市立大学>

***医学部 1 年生**

シソーラスについては説明せず。医中誌 Web・PubMed の基本的な検索のみ。

***医学部 3 年生**

PubMed の基本的な検索に加え、MeSH について説明。

- ・ MeSH とは何か
- ・ 自動マッピングの説明 (Detail の確認)
- ・ MeSH Database を使った検索

医中誌の検索についても説明したが、PubMed 中心の講義で時間がなかったため、医中誌 Web のシソーラスについては検索式を見せながら軽く触れる程度。

3 年生については基本的な検索については 1 年時に講習を受けていたため、高学年向けに差別化をはかるうえでも MeSH の説明は必要と考えた。教員も MeSH の説明はして欲しいとの意見。学生は検索方法の説明にはついてこられるものの、MeSH の説明で分からなくなったという反応が多数だったが、「MeSH というものがある」ということが分かる程度の到達点で良しとした。

3 年生でも基本的な検索の講習を受けていない場合は、講義時間との兼ね合いもあるが、軽く触れる程度または説明しないと思う。

＊看護学部 4 年生

医中誌 Web の基本的な検索のみ。シソーラスについては触れず。

＜藤田保健衛生大学＞

医学部大学院生に PubMed 説明会を実施。

PubMed の説明がそこで初となるため、基本操作が主となり、シソーラスまで説明はしていない。

＜愛知県がんセンター＞

新規採用看護師、レジデント対象にガイダンスを実施。

図書室利用全般のガイダンスで、シソーラスに関する説明はしていない。

＜静岡県立静岡がんセンター＞

講習会を行わず、希望者に個別対応。